



幼児教育

と



小学校教育

が

つながるって

どういうこと?



目次

序章

≫ はじめに P.02

第1章

≫ **幼児教育と小学校教育** P.03

○ 幼児教育と小学校教育の特徴とは? P.04

○ 遊びを通した学び
～幼児教育が大切にしていること～ P.05

○ 幼児教育と小学校教育がつながるために
何が行われているの? P.06

≫ **コラム** P.07

● 5歳児後半の実践事例 P.08

● 入学当初(4月)の実践事例 P.09

第2章

≫ **各教科等における
学びのつながり** 授業展開例 P.10

○ 各教科等における学びのつながり(授業展開例) P.11

○ この章の構成 P.12

● 国語科 P.13

● 算数科 P.21

● 生活科 P.32

● 音楽科 P.41

● 図画工作科 P.50

● 体育科 P.59

● 特別の教科 道徳 P.72

● 特別活動 P.81

はじめに

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期です。
幼児教育においては遊びを通して小学校以降の学びの芽生えを培い、
小学校ではその学びの芽生えを更に伸ばしていくことが重要です。

そのためには、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が欠かせません。

しかしながら、幼児教育と小学校教育ではその教育内容や方法に違いがあり、円滑な接続は容易なものではありません。事実、「幼児教育は、ただ幼児を遊ばせているだけ」「園では、小学校入学に向けた先取りの教育が大事」などの一部の誤解も相まって、円滑な接続に難しさを抱える自治体や園・小学校もまだまだあるようです。

そこで、幼保小の関係者に、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に取り組んでみよう!と思っただけのきっかけになればと考え、本稿を作成しました。幼児教育と小学校教育のそれぞれについての理解を深められるよう、本稿では、子供たちが幼児期に遊びを通してどのような学びを重ねているのか、小学校では幼児期の遊びを通した学びを踏まえてどのように教育活動を展開しているのかを、お伝えします。



一見すると異なるものに見える幼児教育と小学校教育。

しかし、実は、子供たちに「育みたい資質・能力」や「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」と「協働的な学び」の考え方には連続性・一貫性があり、幼児期と児童期の子供の発達や学びはつながっているのです。そして、なにより“子供たちをかけがえのない存在として捉え、一人一人のよりよい成長を願う”というそれぞれの先生方の気持ちは、きっと同じなのではないでしょうか。

現在、地方自治体や園・小学校において「幼保小の架け橋プログラム」に取り組むことが期待される中、施設類型や学校種などを越えて、子供たちの学びをつなげていくために、関係者の皆様に本稿を活用いただけることを期待しております。

第1章

幼児教育と小学校教育



幼児教育と小学校教育の特徴とは？

幼児教育と小学校教育の特徴を、教育課程等や教育方法などの面から見てみましょう。



幼児教育 (幼稚園・保育所・認定こども園)

教育の目標

「感じる」「気付く」「考える」「工夫する」「興味をもつ」「関わる」等の
経験を重視

教育の方法
等

遊びを通した総合的な指導

幼稚園教育
要領等

5つの領域からなる「ねらい」と「内容」
(健康・人間関係・環境・言葉・表現)



小学校教育

教育の目標

「～できるようになる」「分かるようになる」等の
目標への到達度を重視

教育の方法
等

各教科等の目標・内容に沿って選択された
教材による授業

小学校
学習指導要領

各教科等における目標及び内容

(国語科・社会科・算数科・理科・生活科・音楽科・図画工作科・家庭科・
体育科・外国語科・道徳科・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動)

幼児教育

10の姿を念頭に置きながら、小学校以降の生活や
学習の基盤となる資質・能力を育成する

共通 幼児教育と小学校教育

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
(10の姿)

※円滑な接続の手掛かりとして活用

小学校教育

10の姿を踏まえた指導を工夫することにより、
幼児期に育まれた資質・能力を踏まえて、教育活
動を実施する

教育課程等

一人一人の資質・能力を育んでいくよう教育の内容等を組織的かつ計画的に編成

教育方法

「主体的・対話的で深い学び」の実現

幼児教育と小学校教育の特徴をしてみると、様々な違いがあるように見えますが、子供の学びは連続していて、一人一人の資質・能力を育んでいくことには変わりはありません。
では、幼児教育ではどのように子供たちの資質・能力の育成を図っているのか、見てみましょう！

遊びを通した学び～幼児教育が大切にしていること～

幼児期は、幼児が自発的・主体的に人やものに関わりながら、遊びを通して必要な能力や態度などを獲得していく時期です。

そのため、幼児教育では、幼児の「遊びを通した学び」を大切にしています。ただ自由に遊ばせるのではなく、

幼児一人一人が自ら興味や関心をもって、遊びに夢中になる中で試行錯誤しながら、様々な経験を重ねていくことを大切にしています。

保育者は、幼児の遊びが確保されるよう、小学校以降の教育とのつながりを見通しながら、意図をもって幼児を取り巻く人やものといった環境を構成しています。

幼児教育では、こうした教育を「環境を通して行う教育」と呼んでいます。

そして、こうした幼児教育を通して育まれた幼児の資質・能力は、その後の小学校以降の生活や学習における基盤となっています。



小学校以降の生活や学習の基盤となります。



幼児

遊びを通した総合的な指導を通して、
幼児教育において育みたい資質・能力が一体的に育まれていきます。

ものを転がす遊び



ものを転がす遊びを通して育まれる資質・能力の例

- うまく転がしたいと思い、様々な斜度や素材で試してみる
- 友達の転がす様子をよく見たり、転がし方のアイデアを出し合ったりする
- 何度も試しながら、転がる仕組みに気付く
- 発見したうまく転がる方法を他の友達に伝える など

幼児教育において育みたい資質・能力



※資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿として、幼稚園教育要領等では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)が示されています。

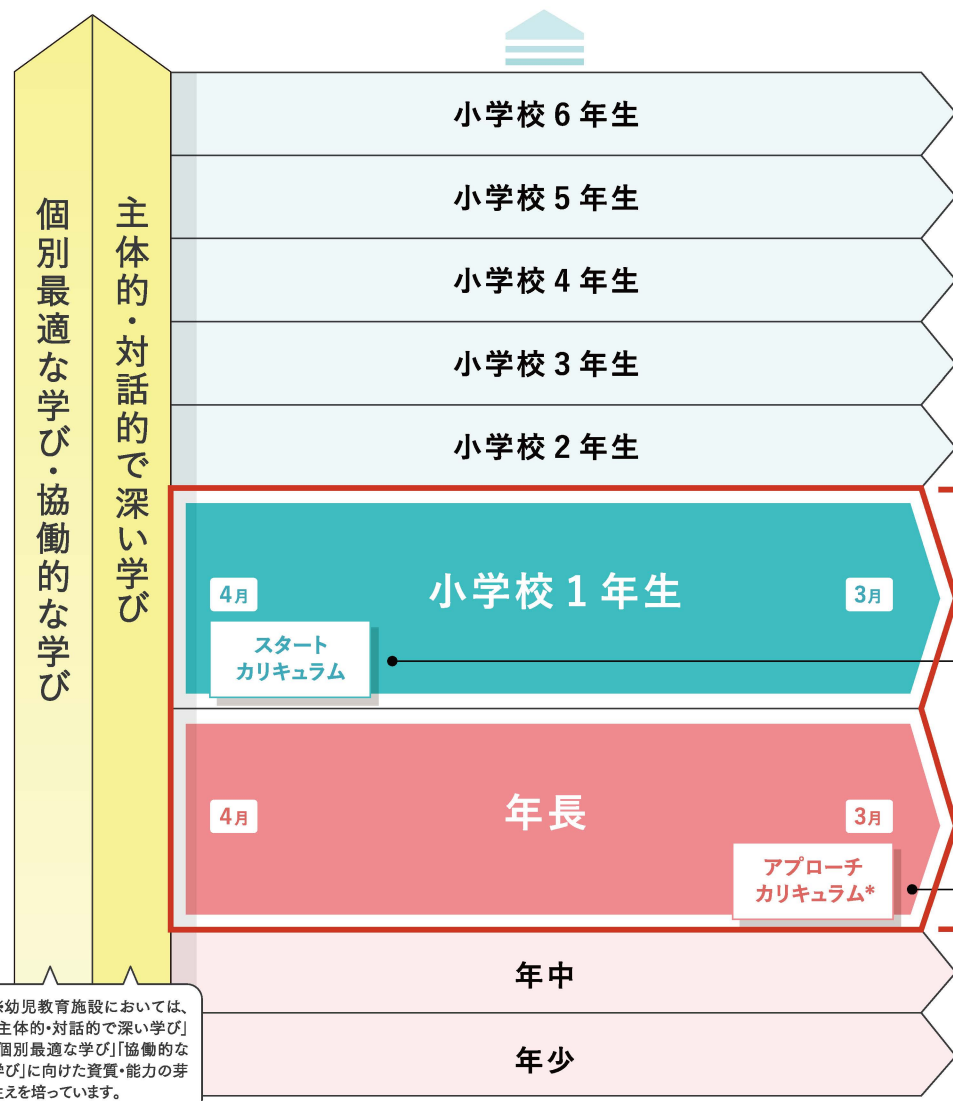
保育者

一人一人の幼児を理解し、幼児の興味が広がったり深まったりして遊びがさらに展開されるよう、必要な遊具や用具、素材などの物的環境や、保育者や友達との関わりなどの人的環境など、教育的に価値のある環境を計画的に構成しています。



幼児教育と小学校教育が つながるために何が行われているの？

幼児教育で育まれた資質・能力を小学校以降の教育で更に伸ばしていくために、子供たちの将来を見据え、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しながら、いわゆる「アプローチカリキュラム*」や「スタートカリキュラム」「架け橋期のカリキュラム」等により、教育内容や教育方法を工夫しています。



※幼児教育施設においては、「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けた資質・能力の芽生えを培っています。


幼保小の架け橋プログラム

「架け橋期」(5歳児から小学校1年生までの2年間)の教育の充実を図るため、幼保小の先生はもとより、保護者や地域住民等の子供に関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、子供一人一人の多様性に配慮した上で、全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指す取組

↓

架け橋期のカリキュラムとは


幼保小の先生が、共通の視点を持ちながら、相互の教育内容や教育方法の充実を図るため、協働して作成する「架け橋期」のカリキュラム



参照：幼保小の架け橋プログラムの実施に向けた手引き

スタートカリキュラムとは

小学校へ入学した子供が、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム



参照：発達や学びをつなぐスタートカリキュラムスタートカリキュラム導入実施の手引き

アプローチカリキュラム*とは

小学校の先取りの教育ではなく、小学校以降の教育を見通しながら、その基盤となる資質・能力を育成していくことを踏まえて教育活動を実施するためのカリキュラム

※「アプローチカリキュラム」とは、文部科学省として正式に使用している用語ではありませんが、小学校以降の教育との接続を確かなものとするために、各自治体において進められている取組のひとつ。名称や内容、時期の捉え方は自治体によって異なります。



実践事例

架け橋期に行われている幼児教育や
小学校の授業の事例をご紹介します。
年長後半と入学当初、それぞれの時期における
先生の意図と働きかけの例をご覧ください。

5歳児後半の 実践事例

▶ 神奈川県平塚市 平塚保育園

近隣の小学校との交流会で楽しかったシャボン玉遊びをきっかけに、友達と一緒に試行錯誤を繰り返しながら、自分たちだけのシャボン玉づくりの実現へとつながっていく事例

5歳児後半のこの時期は、 小学校以降の生活や学習を見通して、ここを意識した!!

同じ目標に向かって友達と一緒に取り組み、実現する楽しさを味わえるようにすること。

相手の考えに触れ、新たに気付いたり考えを取り入れたり試行錯誤しながら探究することを楽しめるようにすること。

気付いたことや考えたことを自分なりの言葉で相手に伝えられるようになること。

START

▶ シャボン玉をつくりたい

交流会でやったシャボン玉づくりを、園でもやりたいという思いが生まれる



先生の思い・関わり

「やりたい」という思いが生まれることを見通して、主な材料をいつでも出せるように準備しておきます。

この遊びが、友達と一緒に試したり考えたりする経験につながるよう、必要な材料などを子供から聞き出していき、遊び出せるようにします。

▶ 小学生みたいにやりたい!

「洗濯糊・食器用洗剤・水」を混ぜ始める



先生の思い・関わり

子供たちが材料に触れながら様々な感じる時間を確保します。

▶ どのくらい入れる?

「洗剤と糊を多くしてみよう」「混ぜる量を変えてみる?」



せんじょう	200.50
のり	200.50
みず	200 × 8

先生の思い・関わり

混ぜる量を加減する必要があることに気付いたことを生かし、メモリ付きの計量カップや、混ぜた量を書き留めておけるボードを近くに出します。

▶ こうしたらどうなる?

「ストローを太くしたら大きくなるかな?」「いいね!」「モールで四角をつくったら、どんな形のシャボン玉になる?」思い付いたことや考えたことを出し合い、試行錯誤を続ける



▶ もっとしたいが膨らんで

「もっと大きく作りたい」「割れないようにしたい」「色を付けたい」



先生の思い・関わり

同じ目標を思い付いた子供たちが集まって考えを交流しながら試行錯誤できるよう、場を設定し直したり、新たな考えが生まれることを期待して素材を増やしたりします。

▶ 大成功! やったー!



水と糊の量を調整しながら新たな気付きが生まれることや、考えを出し合いながら試行錯誤することなどの様々な経験が小学校の各教科等の学びにつながっています。

▶ 本を見たら分かるんじゃない?

「ここになんて書いてある?」「読んでみよう」



先生の思い・関わり

友達に読んでもらったり、自分で読んでりしながら、新たな考えが生まれ、試していく様子を見守ります。

▶ 友達に見てもらおう!



先生の思い・関わり

自分たちの遊びの過程を振り返れるようインタビューしながらシャボン玉づくり大成功の秘密に気付いたり、友達に分かるように伝えたりする経験につないでいきます。

先生の思い・関わり

「こうしたらどうなる?」をとても楽しめるよう、絵本や図鑑を出しておきます。

入学当初(4月)の 実践事例

▶ 滋賀県 湖南市立三雲小学校

安心して学校生活を始めるための「スタートカリキュラム」の一つとして、教室の場所・ものの使い方や学校のルールを探究的に学ぶ学校探検の事例

START

▶ もっと友達のことを知りたい!

自分の好きなものを紹介したり、学校で楽しみなことを話したりしながら、友達同士で自然と打ち解けていく



先生の思い・関わり

入学時は「安心感」を大切に、一人ずつ前に出て発言するのではなく、園でなじみのあるサークルタイム形式で話します。

▶ どこを探検しようかな…

「学校にはガイコツがいるんだって!」「楽器がいっぱいあるんだって」入学前から気になっていた疑問を伝え合う



先生の思い・関わり

「園にはどのような場所があったかな?」「園と比べてみて違うかな?」など、子供たちの園での経験を引き出しながら、思いや願いを生かしていきます。

▶ 探検で疑問を解決!

探検で見つけたこと、不思議に思ったことを伝え合い、再び探検しながら、解決していく



先生の思い・関わり

発見や不思議を共有することで、新たな気付きや疑問が生まれ、探検を重ねながら解決していきます。

▶ ○○を探検したい!

たくさん出てきた疑問や気付きから「ぼくは…」「私は…」と一人一人の思いや願いの実現に向けて、行きたい場所へ探検に出かけていく



先生の思い・関わり

子供一人一人の思いや願いの実現に向けて、学校を探検するという具体的な活動を通して解決できるようにしていきます。

▶ もっともっと探検したい!

音楽室を探検していたら、終了のチャイムがなってしまう「もっと見たかったな」「次の時間でも、また音楽室を見てみようか」とつぶやいている

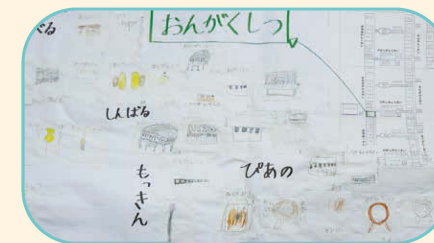


先生の思い・関わり

子供のつぶやきや思いなどを、全体で共有するなどして、次の活動の「めあて」としていきます。

▶ 友達に伝えたい! 絵でかいてみたい!

学校探検で見つけたものをかき出して、地図に貼り、「名前は分からないけれど、こんなものがあったよ!」「こんな形をしていたよ!」と集めて整理していく



小学校入学当初のこの時期に、 幼児期の経験を生かして、ここを意識した!!

入学当初は幼児期とできるだけ近い環境を意識しながら、「安心感」をもてるようにすること。

「今までに見たことある?」「園でやったことある?」など幼児期の経験を子供から引き出しながら授業を進めること。

先生が学習内容を一方的に教えるのではなく、子供の「!(気付き)」や「?(疑問)」を学校探検という具体的な活動を通して解決できるようにすること。

子供の生活リズムや集中する時間、意識の高まりを大切に、2時間続きの学習活動を位置付けるなどの時間配分の工夫をすること。